

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2013・6 vol.441

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



いわてこどもケアセンター クウェート国との友好記念プレート除幕式 (写真撮影：5月29日(水)、(関連記事：P3))

(写真左から：達増拓也 岩手県知事、竹内賢治 日本赤十字社東日本大震災復興支援推進本部長、
アブドル・ラーマン・アル・オタイビクウェート国駐日大使、小川彰 理事長、酒井明夫 センター長)

おもな内容

- 巻頭言 薬学部長就任ご挨拶 薬学部長 前田 正知
- 特集 いわて東北メディカル・メガバンク機構 いよいよ活動スタート
いわて東北メディカル・メガバンク機構長 祖父江 憲治
- トピックス 東北メディカル・メガバンク計画の事業推進に関する協力協定を締結しました
- フリーページ すこやかスポット医学講座No47 「どこまでわかる？産科超音波」
産婦人科学講座 助教 金杉 知宣

薬学部長就任ご挨拶



薬学部長 前田 正 知

こ の度、4月1日付けで薬学部長を拝命いたしました。身に余る重責ではありますが、二井前薬学部長の御業績に恥じぬよう、完成年度後の薬学部がさらなる発展を遂げるよう運営に力を注いで参りたいと思っています。

薬 学部は新設ということだけではなく、全国の薬系大学が皆初めて経験する六年制教育ということで、過去の情報がそのままあてはまらない中、一期生の薬剤師国家試験の合格者数と合格率を高める対策に教員全員が一丸となって取り組み、100名を超える合格者と合格率90.3%（全国8位）という所期の目的を果たせました。就職も、病院、調剤薬局を中心に着実に内定を頂けました。二期生以降も国試・就職ともに堅調に推移できるよう、各担当部門の活動を充実させていきたいと思っています。

薬 学部は平成27年度より改訂コアカリが実施されることになっており、既にそれを先取りする形で今年度より新カリキュラムを導入しました。また、薬学評価機構の評価を受けるべく準備にも着手しています。卒業生や地域の薬剤師を対象とした卒後研修会や実務実習実施のための指導薬剤師養成ワークショップの開催、共用試験OSCE^{*1}のためのSP^{*2}養成など、良質の医療人（薬剤師）養成のために薬学部教員の活動はこれまで以上に広がりを見せています。それらは

どれも薬学教育に必要なことばかりですので、限られた人数の中で円滑に実施できるよう取り組む所存です。

新 カリキュラムの実施では、一年次から薬学の導入科目を提供して学生に早くから専門に馴染ませるとともに、学生の学力把握と学習方法など教員間で情報共有をはかる態勢を整えました。さらに、教育病院を有する本学の特徴も生かし、医療現場を意識した教育を推進したいと考えています。一方、薬学部が完成したことで、大学院薬学研究科（博士課程および修士課程）が4月から新たに設置されました。これで、教育・研究に対する体制が整い、三学部が連携した教育・研究のメニューを考える基盤ができました。

私 の任期は矢巾への病院移転までの間の丁度前半に当たります。この間、本学の建学の精神に則り、地域医療と先進医療に寄与できる卒業生を輩出するため、着実に教育・研究を推進して行きたいと思っていますので、教職員の皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻お願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

※1 OSCE (Objective Structured Clinical Examination): 薬学生の技能や態度を主に評価する客観的臨床能力試験

※2 SP (Standardized Patient): 標準模擬患者

いわてこどもケアセンターを開設しました

本学は、東日本大震災津波により心にストレスを抱えた児童・生徒の心のケアを実施するために、いわてこどもケアセンターを災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟内に設置し、本年5月8日(水)より運用を開始しています。本センターは、岩手県からの委託を受けて本学が設置したもので、日本赤十字社のご協力のもと、クウェート国からご支援を受け、両国民の「絆」の証として整備されました。



開所式テープカットの様子（5月8日）

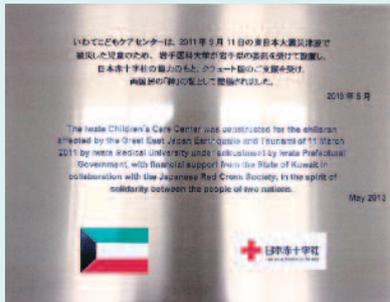
5月29日(水)午前11時から、災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟内において、友好記念プレートの除幕式を挙行し、クウェート国、日本赤十字社、岩手県、本学関係者など約100名にご出席いただきました。

式では、関係者によりプレートの除幕・披露が行われ、堅い握手が交わされました（表紙写真）。その後アブドル駐日大使、達増岩手県知事から祝辞を頂戴し、本学を代表して小川理事長が挨拶を述べました。

除幕式終了後は、センター施設見学と記者会見が行われ、大勢の報道陣と関係者が参加しました。

いわてこどもケアセンター施設概要

- 主要用途 …… 診療施設（児童精神科）
- 設置室等 …… 診察室、セラピールーム、プレイルーム、アクティビティルーム等



友好記念プレート



遊びスペースが備えられた待合室



遊具等を備えたプレイルーム

表彰の榮譽

厚生労働大臣から感謝状が贈呈されました

この度、東日本大震災津波発生直後から本学が行ってきた被災地への支援活動について、その功績が称えられ、厚生労働大臣から感謝状が贈呈されました。

感謝状の伝達式は、5月31日(金)、県内16団体の出席のもと岩手県庁で行われ、本学を代表して小林医学部長が出席しました。伝達式では、根子岩手県保健福祉部長より感謝状が手渡され、支援活動に対する謝意が表されました。



特集

いわて東北メディカル・メガバンク機構 いよいよ活動スタート

副学長

いわて東北メディカル・メガバンク機構長

祖父江 憲治



いわて東北メディカル・メガバンク機構発足の経緯

四国4県に匹敵する広大な県土を有する岩手県は、従前より医療過疎が大きな課題でした。「東日本大震災津波」は、この医療環境に更に重大な影響を及ぼしました。本学は沿岸被災地域の医療復興支援の一環として、平成24年4～5月に文部科学省主催の「東北メディカル・メガバンク計画検討会」で正式参画を表明し、学内の災害復興事業本部（本部長 小川彰学長）のもとに「いわて東北メディカル・メガバンク機構」を設立しました。その後、平成24年10月より半年間をかけて、ゲノムコホート連携推進、ゲノム・オミックス解析戦略、地域医療支援、バイオインフォマティクス・人材育成、倫理・法令の各ワーキングで全国の専門家とともに議論し、東北メディカル・メガバンク事業の運営・活動について方向性を決定しました。東北メディカル・メガバンク事業の運営主体は文部科学省で、岩手県については本学、宮城県については東北大学が担当することになりました。

東北メディカル・メガバンク設立の主眼は、以下の3点です。第一に被災地域（岩手県においては沿岸地域）の医療復興支援、第二に医療復興支援活動の過程で地域住民の理解と協力により健康情報と生体試料のバンク（バイオバンク）を構築、第三にバイオバンクに集められた健康情報・生体試料の解析により次世代個別化医療の実現を行うものです。以下に、いわて東北メディカル・メガバンクにおける取り組みの詳細について説明します。

いわて東北メディカル・メガバンク機構の組織体制

本機構は、地域連携・医療情報ICT部門、臨床研究・疫学研究部門、メガバンク・データ管理部門、生体情報解析部門、広報・企画部門、イノベーション推進・人材育成部門の6部門と、いわて東北メディカル・メガバンク事務室より構成されています。地域連携・医療情報ICT部門は、地域住民健康ネットワークの構築、サテライトの運営と地域医療支援を担当します。臨床研究・疫学研究部門は、コホート調査、疫学研究の遂行と臨床研究の推進を担当します。メガバンク・データ管理部門は、生体試料バンクの管理・運営とデータセンターの構築・運営を行います。生体情報解析部門は、ゲノム情報・オミックス解析、基礎研究の推進とバイオインフォマティクスを担当します。広報・企画部門は、広報の企画立案と広報の推進・遂行を行います。イノベーション推進・人材育成部門は、地域人材の発掘・教育支援・産学官の連携と企画および知財・雇用の創出を担当します。各部門には部門長、副部門長を始め教授10名、准教授5名、講師1名、助教4名、ゲノムメディカルリサーチコーディネーター（GMRC）6名、技術員2名、事務員6名の総勢34名の構成です。事業開始までには、さらに多くのGMRCの方々などの参画を予定しています。



本機構が行う医療復興支援活動について

「いわて東北メディカル・メガバンク機構」の医療復興支援活動について、次ページの図で説明します。本機構の医療復興支援として、平成25年4月より沿岸4基幹県立病院（久慈・宮古・釜石・大船渡）に7名の医師を派遣しました。彼らは地域医療に従事した後、帰学してから希望により本機構での研究活動に参加します。これとは別

に、上記4県立病院にサテライトを設置し、医師・GMRC（看護師・保健師）・薬剤師・コーディネーターなど医療関係スタッフを派遣します。久慈・宮古・釜石と気仙・両磐の沿岸4医療圏の住民を対象に、健診活動・健康相談・病気予防のアドバイスを行うと共に講演会・セミナーを開催して、地域住民同士の繋がりや健康意識の向上に向けた活動を行います。地域により多少異なりますが宮古・大船渡サテライトは本年9月に開設し、活動を開始します。サテライトの活動は、県および各市町村自治体・県市町村医師会・こころのケアセンター・こどもケアセンターと連携し、地域密着型医療の充実を図るとともに、沿岸から岩手県全県に広がるこころと身体健康保全運動を目指しております。本年7月にはこれらサテライトに先行して、GMRCなど本事業スタッフ教育のトレーニングセンターかつ活動開始に向けたパイロットスタディの場として、本学矢巾キャンパス内に矢巾サテライトが始動します。



いわて東北メディカル・メガバンク機構の活動概略図

バイオバンクの構築

本事業の対象地域は、全沿岸地域・被災者の居住が多い内陸部と直接津波被害を受けなかった内陸部（震災ストレスの対象地域）の計20市町村です。各市町村が行う特定健康診断時とサテライトでの健康診断時のいずれかに、対象地域住民の方々の協力をいただきながら健康調査を実施するとともに生体試料（血液・尿など）の提供を受けて、健康情報と生体試料のバイオバンクを構築します。本事業は未曾有の震災地域を対象としたものであり、規模・システム共に世界初かつ最大規模の震災ストレスのバイオバンクとなります。本事業は10年間の期間を予定していますが、本年から平成28年度までの4年間で30,000人の住民の方々のバイオバンクへの参加を予定しています。以上の地域住民を対象としたコホートとは別に、新生児とその両親さらに祖父母という三代のコホート（三世代コホート）を来年度（平成26年度）から開始すべく準備を進めています。

次世代個別化医療の実現に向けて

バイオバンクに集積された健康情報と生体試料を用いて震災ストレスによる健康への影響を解析するとともに、病気の診断から将来かかりやすい病気の発症予測法を開発します。従来の医療は発病して初めて治療開始となりますが、本事業では個人個人のゲノムレベルを含めた解析により個人の特性に応じ発病前の発症予測、すなわち発症前診断法とこれに基づく発症前予防法の開発により次世代型の個別化医療の確立を図ります。さらに治療法の開発についても、創薬や健康産業の開発など岩手県発の新たな事業（イノベーション）と雇用の創出も目指しています。

以上のように本事業は広大な地域と膨大な住民の方々を対象とするもので、いわて東北メディカル・メガバンクの限られた人員で達成出来るものではありません。事業対象地域住民の方々、県市町村医師会、岩手県をはじめ各市町村自治体など多くの方々の御理解と御協力が必要です。それにも増して重要なのは、本学教職員の皆様方の温かい御支援です。本事業完遂のため、御理解と御協力を心よりお願い申し上げます。

平成25年度 予算

本法人の平成25年度予算が、3月25日に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、以下予算の概要についてお知らせします。

なお、予算の詳細について説明・確認を希望される方は、財務部経理課に照会願います。

予算編成にあたって

『誠の人間を育成する』という本学の目的に鑑み、教育・研究・医療のさらなる活性化と質的向上を目指します。そのためには財政面において効率的な収支の均衡を図り、資金確保に努め財政基盤の強化に取り組んでいかなければなりません。

大学経営を安定・維持するためには入学定員充足が不可欠であり、医学部・歯学部・薬学部ともその特性を活かし、また、本学の特色である三学部連携による教育・研究を推進し、総合医療人の育成に向けた魅力ある大学創りを実践することにより、学生を確保していかなければなりません。

平成25年度における主な事業計画は、矢巾キャンパスの歯学部臨床基礎実習室整備の他、いわてこどもケアセンターやいわて東北メディカル・メガバンク機構の施設整備などがあり、多額の事業資金を支出する年度となっています。また、矢巾キャンパスへの病院移転整備及び内丸メディカルセンター整備は、学内外の関

係機関との協議・調整により基本設計を確定し、実施設計に向けた具体的計画を構築しなければなりません。

病院移転整備には多額の資金を必要とするため、事業資金計画に基づいた資金の確保に努めなければなりません。特に、帰属収入の64.4%を占める医療収入については、患者の確保などにより大学附属病院全体の増収を図らなければなりません。また、国の経済政策による物価2%の上昇や社会保障と税の一体改革に関連した平成26年度からの消費税の段階的増税導入などによる本学の財源への影響を考慮する必要があります。

予算編成にあたっては、総合移転整備事業の早期実現に向けた財政を考慮し、収入については、医療収入などの増収に努めるとともに、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得を図り、また、支出については、教育・研究・医療活動を円滑に遂行できるよう配慮のうえ、可能な限り圧縮したものとしました。

主な予算項目

平成25年度消費収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金82億1,903万円（帰属収入に占める割合16.5%）、医療収入320億7,574万円（同64.4%）、補助金52億2,576万円（同10.5%）を計上しました。これら3項目で帰属収入の91.4%を占めております。その他の収入は42億7,441万円（同8.6%）を計上し、基本金57億円を組み入れたことにより、消費収入予算総額は440億9,494万円となりました。

支出予算では、人件費208億1,225万円（消費支出に占める割合45.4%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）124億7,666万円（同27.2%）、その他の諸経費など125億603万円（同27.4%）を計上し、消費支出予算総額は457億9,494万円となりました。

消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、△17億円であり、本年度は支出超過（赤字）の予算編成となりました。

本学の財政は、帰属収入の約64.4%を医療収入に委

ねており、また支出においては、人件費（45.4%）と医療経費（27.2%）で約72.6%を占めております。財政基盤の確立には引き続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は入学金、授業料、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部42億9,833万円、歯学部19億2,958万円、薬学部18億6,232万円、医療専門学校1億2,880万円、合計82億1,903万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院（医科）、歯科医療センター、循環器医療センター、花巻温泉病院、PET・リニアック先端医療センターを合計した医療収入予算は、入院収入237億3,971万円、外来収入80億7,492万円、その他の医療収入

2億6,111万円、合計320億7,574万円を計上しました。

3. 補助金

経常費補助金は24億356万円、いわて東北メディカル・メガバンク機構事業補助金などその他の国庫補助金は15億2,777万円を計上しています。また、地方公共団体補助金は、岩手県ドクターヘリ導入促進事業補助金などを合わせて12億9,443万円を計上しており、補助金は合計52億2,576万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費等の人件費は定期昇給分1.96%を見込んで187億8,083万円を計上し、また退職金関係では退職金と退職給与引当金繰入額及び退職給与引当金特別繰入額に20億56万円を計上して、その他を合わせ人件費合計は208億1,225万円となりました。

5. 医療経費

附属病院全体の医療経費について、医薬品費は対医療収入割合20.5%の65億8,369万円、医療材料費は同17.7%の56億6,747万円、給食材料費は同0.7%の2億2,550万円を計上したことにより、医療経費合計は124

億7,666万円（経費率38.9%）の計上となりました。

6. 研究費

講座研究費の予算は前年度と同額としました。個人研究費である特別研究費と学会旅費は、特別研究費として統合し予算を変更しました。

施設関係等の予算は次のとおりです。

1. 施設関係

建物・建物附属設備などでは、附属病院設計管理業務などに5億円、矢巾キャンパス歯学部臨床基礎実習室移転整備に1億8,000万円、その他いわてこどもケアセンターやいわて東北メディカル・メガバンク機構の施設整備などに6億2,000万円、合計13億円を計上しました。

2. 設備関係

教育、研究、診療、管理用機器備品などの購入予算として、16億5,590万円を計上し、このうち歯学部ファントム実習机などに1億3,000万円、中央臨床検査部検査機器の更新に3億1,000万円を計上しました。

平成25年度 消費収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	8,219,030	人件費	20,812,250
手数料	156,870	医療経費	12,476,660
医療収入	32,075,740	消耗品費	1,244,990
寄付金	1,980,000	光熱水費	1,233,410
補助金	5,225,760	旅費	262,570
資産運用収入	184,300	修繕費	560,100
事業収入	1,276,970	業務委託費	3,289,700
雑収入	676,270	減価償却額	3,430,940
帰属収入合計	49,794,940	その他の諸経費等	2,284,320
基本金組入額合計	△ 5,700,000	予備	200,000
消費収入の部合計	44,094,940	消費支出の部合計	45,794,940
当年度消費支出超過額	1,700,000		

平成25年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,219,030	人件費支出	20,248,110
手数料収入	156,870	諸経費支出	21,199,420
医療収入	32,075,740	施設関係支出	1,300,000
寄付金収入	1,920,000	設備関係支出	1,655,900
補助金収入	5,225,760	資産運用支出	4,503,000
資産運用収入	184,300	その他の支出	5,859,840
事業収入	1,276,970	予備費	500,000
雑収入	676,270	資金支出調整勘定	△ 4,805,710
前受金収入	1,322,440	次年度繰越支払資金	13,636,410
その他の収入	7,241,320		
資金収入調整勘定	△ 7,201,730		
前年度繰越支払資金	13,000,000		
収入の部合計	64,096,970	支出の部合計	64,096,970

東北メディカル・メガバンク計画の事業推進に関する協力協定を締結しました

5月1日(水)、本学と東北大学は、東北メディカル・メガバンク計画の事業推進に関する協力協定を締結しました。

調印式は、東北大学片平キャンパスで行われ、小川彰理事長（写真右）と東北大学里見進総長（写真左）が、連携協力に関する協定書に署名しました。

本事業は、東日本大震災津波からの復興プロジェクトとして、文部科学省内に推進本部が設けられ、本学と東北大学により実施されています。

本事業の推進にあたり、本学はいわて東北メディカル・メガバンク機構を東北大学は東北メディカル・メガバンク機構をそれぞれ設置しています。



総合医療安全対策講習会が行われました

今年度の総合医療安全対策講習会が、5月8日(水)から7回（録画映像による開催含む）にわたって歯学部棟4階講堂で行われ、合わせて約2,000名が参加しました。講習会では、院内における総合的な医療安全対策をテーマに、学内講師による講演が行われました。また、5月8日の本開催では、平成24年度医療安全表彰者2名・2部署と院内感染対策功労部署4部署に対し、江原医療安全管理部長から表彰状が授与されました。



ふれあい看護体験が行われました

5月16日(木)、本学附属病院で「ふれあい看護体験」が行われ、県内の高校生合わせて約19名が参加しました。この行事はナイチンゲールの誕生日である5月12日の「看護の日」にちなんで行われるもので、平成4年から毎年実施しています。参加した高校生は、ユニホームに着替えた後、杉山附属病院副院長や及川看護部長から挨拶を受けました。その後、それぞれの体験場所に移動し、患者さんの搬送や誘導、清潔面の援助、車椅子での散歩などを体験し、患者さんとのコミュニケーションを深めていました。また、体験終了後には参加者同士の意見交換会が行われ、参加者へ修了証が手渡されました。



全学教育運営委員会 FD講習会が行われました

5月28日(火)、歯学部棟4階講堂で全学教育運営委員会FD講習会が行われ、3学部の教育職員等が参加しました。この講習会は、大学の3つのポリシー*の改正を前に、教育方針に係る共通認識を深めることを目的として開催されました。

講習会は、愛媛大学医学部総合医学教育センターの小林直人先生が講師を務め、愛媛大学の実経験に基づいた講演があり、参加者は熱心に聴講していました。

*3つのポリシー：アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（カリキュラム編成方針）、ディプロマ・ポリシー（学位認定方針）



【新入職員教育研修会を受けて】

● 薬剤部薬剤師 立川 知英



新入職員教育研修会を受けて、医療人として自覚を持つことはもちろんのこと、大学の附属病院という大きい組織の中で働くという意味を再確認しました。

自分の専門の仕事を覚えていくことにプラスアルファして、どのように岩手医科大学と大学附属病院が運営されているのかを念頭に置き、考えながら判断をして仕事を進めていくべきなのだと実感しました。

患者さんの安全ということを常に考えて、自覚と責任をしっかり持って行動していきたいと思います。そして、困った時や判断に悩んだ時は必ず周りの先輩や上司の方々と情報を共有してアドバイスを頂きたいと思います。

これから働くにあたって、自分の専門の仕事に追われると思います。しかし、今回のオリエンテーションで教えて頂いた大きな組織の中での自分の仕事ということをしかりと念頭に置いて、幅広い選択をして貢献していきたいと決意しました。

三日間、私達新人のために様々な講演をして頂きありがとうございました。

● 東6階看護師 小笠原 陽子



新入職員教育研修会を受けて強く感じたことは、社会人としての責任と自覚を持ち品行に気を付けること、人の命を助ける医療人としての誇りを持ち、業務を全うすることが今後の私の使命であるということです。

研修の中で社会人としての心得や知識、マナーを学び、自分自身の行動の責任の重さを感じました。また、岩手医科大学の地域における位置づけや役割などを学び、地域から熱い期待を寄せられている大学であると改めて認識しました。そのため、岩手医科大学附属病院で働く社会人ということをしきりと自覚し、責任ある行動、品位を保った行動を心掛けたいと思います。また、私達医療職は、疾病や障がいを持つ患者さんを対象として人の生命に直接関わる仕事であると学びました。何にも代え難い尊い命であるからこそミスは許されません。医療の現場において事故や感染などに対し様々な対策が立てられているのも、全て患者さんの命を守るためです。緊張感や責任は大きいものですが、人の命に携わることのできる医療職はとても誇りを持てる仕事だと考えます。これから医療に従事する者として誇りを持ち、良質な医療を提供し、一人でも多くの患者様の命を助けることができるよう努めていきたいと思います。

今回の新入職員教育研修会を通し、多くのことを学び決意を新たにすることができました。

● 研究助成課事務員 阿部 光希



新入職員教育研修会を通して私が強く感じたことは、自分のイメージよりも大きく複雑な組織の連携によって大学と病院が運営されているという点でした。

大学と病院の運営は、多くの職場の方々の努力、尽力があってこそ成り立っているものです。私がこれから先、その運営業務に関わっていくことができるという事に大きな希望を感じると共に、強い責任感、使命感を持って働いていくことが大切になると感じました。自分自身の行動一つひとつが、岩手医科大学の未来を形作っていくのであるという意識を強く持ちながら、業務に励んでいきたいと思います。

これからの大学と病院の発展と存続のためには、財務状況の安定と高度な医療体制の維持が重要になります。その中で事務職員が大学のために貢献できることは、数多く存在していると思いますし、改めて自身のスキルアップのためにも幅広い職場での勤務を経験したいと感じました。

最後になりますが、今回の新入職員教育研修会を開いてくださいました多くの職員の方々に深く感謝申し上げます。研修会で学んだことを忘れることなく、岩手医科大学の職員として、本学の益々の発展に貢献できるよう、努力していきたいです。

省エネ推進委員会だより

～「夏の節電行動計画」について～

先日、電力会社より今夏の電力需給見通しについて発表がありました。発表によると「ピーク時もある程度の余裕は確保できる見通しだが、発電設備等に不具合が生じた場合は、一気に電力需給が逼迫する恐れもあるので今夏も節電に努めて欲しい」とのことでした。

この発表から見ても、今夏も節電は必要なことから、次のような節電対策を計画しましたので、無理のない範囲で節電に心掛けて頂くようご協力をお願いします。

夏の節電対策

実践期間：6月1日～8月31日迄

削減目標：期間内の消費電力量（合計）の3%削減（前年度比）



《実践項目》

- その① 冷房の設定温度は28℃もしくは弱冷房として下さい。
※なお、病室や診療室、実験室等は、支障のない範囲で設定緩和に努めてください。
- その② 不要照明の消灯、休憩時間における照明は消灯しましょう。
- その③ 不要な医療・研究・事務用機器は電源を切りましょう。
- その④ クールビズの実践 ※クールビズは9月末迄
- その⑤ 気温上昇に伴いエネルギー消費の増加が見込まれる場合は、館内放送や巡視点検を実施し、節電を要請します。

期間中は、実践状況や学内のエネルギー使用状況の把握のため、施設課並びに省エネ推進委員による定期的な省エネパトロールを予定しています。

理事会報告

■ 4月定例（4月30日開催）

1. 故 大堀 勉前理事長からの遺贈の受入れについて
故 大堀 勉前理事長からの遺贈を受け入れることとし、今後用途について検討していくこととした。
2. 教育職員の人事について
医学部放射線医学講座
特任准教授 田中 良一（現 講師）
（発令年月日 平成25年7月1日付）
3. 任期満了に伴うリエゾンセンター長の選任について
リエゾンセンター長 佐々木 真理（新任）
（任期 平成25年4月1日から平成28年3月31日まで）
4. 組織規程の一部改正について
①災害復興事業本部にいわて子どもケアセンターを設置することに伴う一部改正
（施行年月日 平成25年4月1日）
②事務局に災害時地域医療支援教育センター事務室を設置することに伴う一部改正
（施行年月日 平成25年5月1日）
5. 「内丸メディカルセンター（仮称）整備事業」設計業者の選定について
「内丸メディカルセンター（仮称）整備事業」設計プロポー

ザルのヒアリングにおける選定委員の評価の結果、最優秀となった株式会社日建設計を優先契約候補者として選定することとした。

6. 矢巾キャンパスC敷地の土地利用計画について
総合移転整備計画策定委員会より理事会へ上申があった事項について、上申に基づき矢巾町、県と協議を行なっていくこととした。

<主な上申内容>

- ①A・B敷地を含む矢巾キャンパス全体で一体的かつ効率的な運用を可能とする配置計画とすること
- ②将来的に新附属病院を核とする三次医療拠点ゾーンを形成することを視野に、機能ごとにエリアを分けし、施設拡充や建替えにも柔軟に対応できる配置計画とすること
- ③地域の活性化を含む周辺環境の整備に向けて行政との協議を継続すること
- ④緑地環境エリアを整備すること

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

～ 皆様のご厚志により支えられています～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は21回目の御芳名紹介です。(平成25年3月1日～平成25年4月30日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

<2,000,000円>

協栄テックス 株式会社 (岩手県)

<1,000,000円>

医療法人 田村内科医院 (福島県)

株式会社 岡村製作所北東北支店 (岩手県)

丸木医科器械 株式会社 (宮城県)

(敬称略)

<御芳名のみ記載>

医療法人社団 崇貴会

医療法人 仁泉会

(受付順、敬称略)

個人等

<御芳名のみ記載>

及川 慶一 (医23)

吉成 毅 (医34)

(受付順、敬称略)

区分	申込件数	募金金額(円)
圭 陵 会	467	368,172,000
在 学 生 父 母	191	165,140,000
役員・名誉教授	40	70,910,000
教 職 員	118	18,735,000
在 学 生	1	100,000
一 般	118	398,342,922
合 計	935	1,021,399,922